

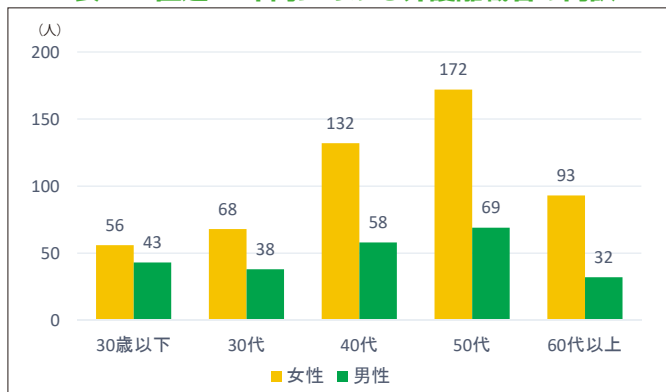


介護離職ゼロを目指して

介護にも男女差がある

仕事を辞めて介護をする人は、男女別でみると女性が3分の2と、特に多い傾向があります。これは女性が家事を担うケースが多いことや、男性の方が平均年収が高いため、女性が介護離職しやすいということが推測できます。

表2 直近3年間における介護離職者の内訳



2015年株式会社インターリスク総研調べ
「仕事と介護の両立に関する企業実態調査報告書」P6 より作成

表に出ない男性介護

主に40〜50歳の男性に多いのが、自分が介護をしていることを周囲に言えない、言わない、いわゆる「隠れ介護」という状況です。

会社や上司に相談すると出世に響く、職場に迷惑がかかるかと不安になり、周囲に言えないまま介護と仕事の両立をしようと無理をし、結果介護うつや介護離職を引き起こす原因になると考えられています。

ダブルケア

初婚年齢や出産年齢の上昇により、子育てと同時期に介護も担う「ダブルケア」が問題となり、その数は25万3千人ともいわれています。

(内閣府男女共同参画局 平成27年度「育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告書」)

兄弟姉妹が少ない、親戚との繋がりが薄いこと等が要因にあげられます。

社会を変えるために会社が変わる

育児・介護休業法の改正により、相談窓口の設置が2017(平成29)年1月、新たに義務化されました。介護を理由に退職した人の再雇用をすすめる努力義務もあります。

しかし介護支援制度の仕組みや相談窓口を作っても、社員が知らなければ意味がありません。

介護を社会の当たり前にするために、介護支援制度について、会社が積極的な情報提供や研修等を全社員におこない、介護は身近なものだと理解してもらう必要があります。

(佐野)

下記の本は、清瀬市内の図書館、アイレックで借りることができます。

要介護者に寄り添う



おススメの本

「介護」というと聞こえてくるのは「たいへん」という言葉です。認知症、遠距離、資金、確かにそうです。ただ、時として見失いがちなのは要介護者となったその人の「思い」です。思うように動いていないかもしれない自分、そのことで家族や公的機関の人までが集まってくる不安。しかし、介護でそれを安心に変えていくこともできます。要介護者となった人の思いと寄り添う心を5冊の本から紹介します。「たいへん」に感じる介護も笑顔になれるヒントが見つかるかもしれません。(桑山)

家族がしあわせになる 体と心の在宅介護

富田 順子/実業之日本社

富田順子さんはヘルパーの経験から要介護者の思いを活かすと介護は軌道に乗りやすいと進言します。介護者には不可解な要介護者の言動も、本人には理由があることが多いのです。

例えば、「〇〇屋の△△」とこだわりがある人の買い物了他社製品で代用すると、気分を害されかねません。手間がかかっても希望の品を揃えると相手は喜び、信頼関係も築け、他のこともうまく進むようになりますと話します。



認知症になった私が伝えたいこと

佐藤 雅彦/大月書店

佐藤雅彦さんは51歳で若年性認知症と診断されます。医師に突然病名を告げられて衝撃を受け、介護者向けの物しかない本を読めば「日常生活もできなくなり、自分のこともわからなくなり、やがては意思も感情も失う」と書いてあり、大きな恐怖を覚えました。

しかし、やがてそれは要介護者を脅かす偏見と知ります。備忘のメモを見ても何も覚えてはいないけれど、そのメモを頼りに行動はできます。「人が人として生きることを支えよう」という家族やスタッフの協力を受け、ひとりでも何年も「堂々と暮らしていく」のです。

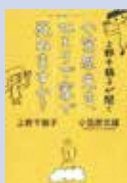


小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか？

上野 千鶴子 小笠原 文雄/朝日新聞出版

上野千鶴子さんとの対談で小笠原文雄医師は、スタッフの理解と協力で在宅死した症例を多数紹介。医療的措置、介護の手法を駆使し、本人の希望に沿った人生の終わりをサポートします。

認知症で頼りにしていた医師やスタッフのことがわからなくなっても、自宅で静かに逝った人もあり、要件を一つ一つクリアすれば道はあると語ります。



ヘルプマン! 7 介護支援専門員編

くさか 里樹/講談社

ばあばは、だいじょうぶ

楠 章子作 いいい つとむ 絵/童心社

徹底して要介護者と家族に寄り添う介護スタッフの奮闘を描く漫画や、幼子が揺らぎながら認知症の祖母を受け止める気づきを描いた絵本もあります。

